



2015年8月発行

船橋市学童保育連絡協議会

公式サイト <http://homepage2.nifty.com/fghrk/>

メール fghrk_info@freeml.com



船橋市に要望書を提出しました。

7月30日に、保育園父母会連絡会など市内の子育て団体と共同で、統一要望書を提出しました。同時に、市長との懇談を要望しました。

※要望書の全文は、HPを参照してください。

・待機児対策が遅れています。

4月1日現在で471名の待機児が発生していましたが、8月1日でも466名が待機になっています。船橋市は昨年の議会で、「放課後子供教室をすでに実施している他市の例を見ると、放課後ルームの利用状況に少なからず影響を与えることが予想されるので、今後の利用状況を見た上で施設増設も含めて多様な手法を検討したい。」と答弁しています。

今年の6月から約半数の小学校で放課後子供教室が始まりましたが、放課後ルームの「利用状況に影響がない」ことがはっきりしてきています。「利用状況を見る」ことを理由にして、待機児対策が遅れています。

・放課後ルーム利用者の量の見込みが、低く抑えられています。

船橋市子ども・子育て支援事業計画には、今後5年間の「量の見込み」が記載されています。

今年度の保育園（3～5歳・保育認定子ども）の量の見込みが、5686人です。そして、放課後ルームの利用者は在籍児童と不許可者の合計が5195人です。

ところが、この5686人が小学生となる3年後の量の見込みが、4521人と計画されています。人口増が見込まれる西部地区では、保育需要が5年間で1327から1501に増えているにもかかわらず、放課後ルームは、1200から1033に減少するとされています。

・指導員不足が解消されていません。

指導員の待遇が改善されましたが、指導員不足は解消されていません。10/1採用で、50名の募集がされています。夏休みの補助指導員も足りていないため、指導員は長時間勤務を強いられています。

朝8:00から19:00までの11時間勤務

13:00からの勤務が、前倒しで勤務

指導員不足の解消のためには、更なる抜本的な対策が必要とされています。